

常任委員会視察報告書

<p>委員会名</p>	<p>市民環境常任委員会 (児玉委員長、久坂副委員長、くり林委員、日向委員、くりはら委員、長嶋委員)</p>
<p>視察先 調査事項 など</p>	<p>1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁） ・10月24日（月）14時00分～15時00分 ・説明者：地方創生局 観光振興室 2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市） ・10月25日（火）10時00分～11時00分 ・説明者：産業振興部 産業企画課</p>
<p>視察先 概況</p>	<p>1 富山県の概況 富山県は、本州の中央北部に位置し、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に隣接しています。15の市町村からなり、県全体で約102万人（令和4年10月1日時点）の人口を擁しています。三方を急峻な山々にかこまれ、深い湾を抱くように平野が広がっており、富山市を中心に半径50kmというまとまりのよい地形が特徴で、自然豊かな県です。日本海側の中央に位置していることから、環日本海の玄関口として、アジア大陸や朝鮮半島など対岸諸国との古くからの交流の積み重ねを活かし、環日本海地域の中央拠点として活発な取組を展開しています。 今回の視察では、所管事務調査事項「社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について」の調査の一環として、令和4年3月に策定された「第3次富山県観光振興戦略プラン」や平成23年に開校し、現在まで観光人材を輩出し続けている「とやま観光塾」等の取組状況・推進状況について視察を行いました。</p> <p>2 高岡市の概況 高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置し、平成17年11月1日に旧高岡市、旧福岡町が合併し誕生しました。人口は、富山県内で2番目に多い約17万人（令和4年10月31日時点）を擁しており、鎌倉市と同程度です。豊かな自然に恵まれ、長い歴史の中で培われてきた薫り高い文化と伝統、多彩な産業が息づく富山県西部の中核都市です。南北の交通軸には東海北陸自動車道と能越自動車道が整備され、東西の新しい交通軸には平成27年3月に北陸新幹線が開業し、また、伏木富山港の総合的拠点港の選定などを機に、飛騨、能登エリアを含む飛越能地域の玄関口、環日本海沿岸地域における交流拠点都市として、新たな飛躍を目指しています。 高岡銅器や高岡漆器は、高岡が誇る代表的な伝統産業であり、400年にわたる長い歴史の中で受け継がれてきた「ものづくりの技と心」が今もなお脈々と息づいています。 今回の視察では、所管事務調査事項「社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について」の調査の一環として、高岡市議会と地元商店街との連携により、議員提案条例として平成29年9月に公布・施行された「高岡市商店街の活性化に関する条例」の制定の経緯や「高岡市賑わい集積開業等支援事業」をはじめとした商店街・店舗等への支援施策に係る取組状況・推進状況について視察を行いました。</p>

	<p>1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「第3次富山県観光振興戦略プラン」（期間：R4～R8）は「選ばれ続ける観光地～幸せな旅と暮らしを富山県から～」を基本目標とし、Ⅰ.新たな時代の観光への対応、Ⅱ.持続可能な観光地域づくり、Ⅲ.ターゲットに応じた戦略的なプロモーションで構成されている。 ◆「元気富山観光条例」を制定。 ◆観光に関連する経済効果のR3年実績は約1,241億円、R8年目標は2,220億円。これは、とやま観光ナビや各メディアの情報を基に県独自でデータ分析・算出している。 ◆富山県は空港もあり北陸新幹線もH27年に開通し、首都圏からの交通インフラは大きく発展している半面、日帰り観光地になっている点、隣県の金沢市の知名度の陰に隠れてしまっている点が根本的課題。 ◆観光人材を育成する「とやま観光塾」はH23年に開校し、今年で12期目。48名が研鑽中。R3年までに671名が就業した。講師は東大名誉教授他。 ◆海外からの観光客は東アジア・東南アジアが中心であったが、欧米豪の富裕層取り込みによる新規市場開拓を目指している。 <p>【所感】</p> <p>交通インフラ（ハード面）は整っており、ビジョン・プラン・データ分析（ソフト面）も然るべく策定しているが、県として核となる「売り」がないのが根本的課題。欧米豪の富裕層新規開拓は鎌倉市も取り組むべき課題。</p>
<p>児玉文彦 委員長・所感</p>	<p>2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高岡市は鎌倉市と人口も財政規模もほぼ同じ。 ◆「第2期 高岡市産業振興ビジョン」は7つの視点と5つの施策体系から構成され、「地域産業の強靱化」の実現を目指している。 ◆平成29年9月に公布された「高岡市商店街の活性化に関する条例」は全12条。事業者・商店会・商店会団体・経済関係団体・建物所有者等・市・大型店・市民、それぞれの責務・求められる協力が条文化されており、条例の目的、基本理念、各主体の役割が明確になっている。 <p>なお、この条例は商店街会長が他市を参考に市議会議員との連携で発効された議員提案条例。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新たに店舗等を開業される方への支援制度「高岡市賑わい集積開業等支援事業」は①中心市街地、②観光地周辺区域、③左記以外の商店街形成区域の3パターンを軸にそれぞれ対象経費、補助率、限度額が細かく設定されている。市予算は年2,000万円、件数上限はなし。毎年使い切っている。 ◆他にも、県外客や外国人旅行者へのおもてなし整備を行う商店街や団体に対して「高岡市がんばる商店街づくり推進事業費補助金」を交付している。 ◆「日本遺産」に登録されている点も全面に出し活性化を推進している。 <p>【所感】</p> <p>行政側が商店街・地域・市民に寄り添っており、商店街全体の活性化のみならず新規開業した個々の店舗が軌道に乗るよう親身になって取り組んでいる姿勢や日本遺産PRは鎌倉市に足りない部分であり、多くの気付き・学びがあった。鎌倉市の観光・商工振興策へ活かせるよう取り組んでいきたい。</p>

1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁）

【富山県の観光施策現状について】

◎富山県は日帰り客が多く、宿泊客が金沢など他地域に流れるという鎌倉市と同じ悩みを持つ。そのため、富裕層などをターゲットとする宿泊施設の誘致、設置が重要課題とされ、宿泊施設に特化した高付加価値化の補助を実施している。

また、観光創業を検討する事業者に対し県内の土地を案内するなどソフト支援にも力を入れている。

◎観光消費額が乏しいという悩みに対して

同県はマーケティングデータ等の積極的利用により、ターゲットを絞り込み、ニーズに合致した商品開発などに着手。また欧米を中心としたインバウンドの取り込みも視野に入れ、これらの層に訴求力の高い富山県の観光資源の要素の絞り込みを行うなどマーケティングに裏打ちされた施策に着手する。

【鎌倉で参考とすべき点等について】

◎鎌倉市では行政サイド、観光協会ともにデータの収集・解析まで可能な体制が整っていない。しかしながら、今後マーケティング・データに裏打ちされた合理的な施策の展開を視野に入れるべきであり、民間との提携などを包括的に考える中での施策づくりが求められる。

なお、県観光施策は、地方創生における経済戦略と完全にリンクしており、一体的な施策展開の方向性がある。この点参考にすべきであろう。

久坂くにえ
副委員長・所感

2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市）

【高岡市現況について】

◎前田利家公が開いた町であり、鋳物を中心とした商家が多く集まっていたため、そもそも商業が町の一つの重要要素である。

高岡、氷見を含んだ5つの町の広域化により1つの自治体では展開しきれない施策を実施する体制づくりを行い、創業セミナーなどを実施する。

◎なお、同市では新幹線新駅開設とともに大型ショッピングモールが開業し、町の中心部の空洞化が進んだ。この中心部に位置する御旅屋通りを復活させるべく、職員による空き店舗のローラー聞き取り調査、データ化を行い施策を検討している。

また、賑わいを取り戻したいエリアを明確にし、これらエリアに創業する事業者に対しては、総額2,000万円の補助を実施しており、毎年予算は消化され、補正を組むほど認知度が高く、かつ利用されている。

【鎌倉で参考とすべき点等につて】

◎本市も藤沢と連携する湘南エリア、また三浦半島を中心とする三浦半島エリアと広域を組むべきパートナーは数多く存在する。また、神奈川県内においてもけん引すべき存在である。

なお、DMOの設立自体は藤沢との連携を考えているが、もう一つ踏み込み、広域で、より実際的な施策を実施できるよう検討すべきと考える。

また、高岡市で実施する新規創業者に対する補助制度など鎌倉市として独自の制度を創設する際には、開業希望者数や家賃などのなどに違いはあるものの、訴求力の高い施策を策定すべきと改めて感じた。

くり林こうこう
委員 所感

1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁）

富山県議会 4 階会議室にて実施。

富山県担当者からの観光施策概要説明ののち、各委員からの質疑応答を行った。特に、鎌倉市にとって有益であったと考えられるポイントは、以下の通り。

・宿泊利用者増加への施策

鎌倉市と課題を同じくして、富山県も、日帰り観光客が多く、宿泊者数の伸び悩みに直面している。鎌倉市の場合、近隣の江ノ島、横浜、箱根小田原といった魅力的な宿泊施設が密集している地域に観光客が流されてしまうことがその原因であるが、富山県も、石川県(金沢)や長野県(軽井沢)といった有力宿泊ゾーンに観光客が流され、1人あたりの観光消費額の停滞を余儀なくされている。

富山県としては、海外富裕層をターゲットに(特に、欧米系からの観光客を主たるペルソナに想定している。これは、コロナによる移動制限の緩和が大きな理由とのこと)、マーケティングに注力していくとのことである。

鎌倉市としても、当該施策を参考にしながら注視したい。

・観光消費と経済的メリットの試算について

鎌倉市では、長年観光消費がいかにして市の財政や経済に影響を与えているのか、その可視化に頭を悩ませている。

富山県では、専門会社に業務を依頼し、ある程度の試算を出せつつある。是非参考にしたい。

2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市）

高岡市議会会議室にて実施。

高岡市担当者からの観光施策概要説明ののち、各委員からの質疑応答を行った。特に、鎌倉市によって有益であったと考えられるポイントは、以下の通り。

・商工業振興に関する条例について

高岡市では、議会主導で商工業振興に関する条例が平成 29 年に施行されている。議員提案条例ということで、私含め他委員からの関心も高く、条例提案や施行までの経緯や現在の効果など、闊達に議論が交わされた。

商店街からの要望によりスタートした話であったとのことで、議員の一人として、常に地元住民や商店とのコミュニケーションを図ることの重要性を実感した。

・三大大仏の一つである高岡大仏を観光の要所として持つ高岡市なので、同じく大仏が街のトレードマークである鎌倉市として、その周辺地域における観光商店や観光スポットに関する意見交換がなされた。

また、高岡市も日本遺産に 2 つのストーリーが登録されており、日本遺産を活かした街のアピール、歴史都市としての魅力発信方法などについて有意義な示唆を得ることが出来た。

共通点のある市区町村へのヒアリングは、現場の課題感や打てる施策の予算規模など、参考にできる部分が非常に多く、今後の鎌倉市の観光政策に反映させていくことができると確信している。

日向慎吾
委員 所感

1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁）

令和4年3月に「第3次富山県観光振興戦略プラン」を策定し、With コロナにおける、新たな時代の観光への対応や持続可能な観光地域づくり、ターゲットに応じた戦略的なプロモーションを目指し施策に取り組まれている。

また、平成22年度に北陸新幹線開業に向けて、次世代の観光を担う人材育成に取り組み、開講された「とやま観光塾」は多くの修了生を輩出しており、中には起業をする人もいるほどで、地元の人が熱い思いを持って学び、訪れる人に対して県の魅力を十分紹介している様子が見えた。

新型コロナウイルスへの不安は昨年まではあったが、今年は受入れ側としての不安の声はあまり聞こえてきていないとのことで、外国人旅行者へも積極的に情報を発信し、観光案内所の多言語化やサイトのリニューアルなど受入環境の整備を進められていた。特にコロナ再開の動き出しは欧米が早いと考えて、令和4年6月と9月の補正予算で外国へのPRを行うなど海外誘客への前向きな姿勢を感じた。

観光というと、外に目を向けた取組が多いが、地元の人が地元をよく知り、暮らしを誇り、日常にある幸せや魅力を大切にしていくことが観光地として大きな柱になっているということ、情報発信にはデジタル技術を活用して、国内外の様々な世代へ届くようにしていかなければならないことなど、鎌倉市としてもより一層取り組んでいかなければならないと感じた。

2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市）

地域の商業振興にとっても力を入れており「高岡市産業の振興及び小規模企業の持続的発展に関する基本条例」「高岡市商店街の活性化に関する条例」を制定された。中小企業への支援は創業から人材育成、経営支援、技術開発、事業承継まで幅広く切れ目のないフォローを市がしっかりと行っているため、支援メニューを一つひとつ確認しながら参考にしたい点である。

また、「高岡市商店街の活性化に関する条例」は議員による政策的条例議案とのことで、議会からの具体的な取組は学ぶべきと感じた。新たな店舗等の開業する方への支援は毎年2,000万円の予算を付けているが毎年度使い切っている事業となっており、商店街を応援する取組につながっている。支援の対象は基本的に商店会の加入店舗としているため、加入していない店舗への加入促進対策が必要である。高岡市の商店会では、会費でゴミ回収を行っていたり、レシートを利用したキャッシュバックキャンペーンを実施したりするなど商店会に加入することのメリットを打ち出している。店舗兼自宅が多く、借り手がつかない店舗もあり、課題となっているが新たに片付けの補助を検討し解決に向けた取り組みを強化している。

市の施策も職員の方も市民へ寄り添うとともに解決に向けた姿勢が示されており、各主体で役割はあるもののしっかりと連携、協力をして推進されている。地域産業を次世代へつなげていく取り組みは鎌倉市も参考にさらなる充実をさせていきたいと感じた。

くりはらえりこ
委員 所感

1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁）

《課題認識》

- ・富山には、世界遺産があるものの、その他の場所が知られていない。
- ・日帰り観光客が多い。

《戦略・支援策》

- ・データサイエンスに基づいたマーケティングを自ら行って観光客向けの旅行商品を開発したり、販路の開発に力を注いでいる。
- ・関係人口を増やして、繰り返し来る人を増やし、ビジネス観光や視察の誘致を行っている。
- ・コロナ禍前まではアジアのインバウンドが多かったが、ゼロコロナ政策の影響で中国・アジアの動きが鈍い為、欧米の方をターゲットにする事にシフトし、インバウンド向けのホームページを充実させている。
- ・観光人材を育成する為に観光塾を行い、おもてなし力を上げている。
- ・観光物産に力を入れ、都内にアンテナショップを作りPRしている。
- ・デジタルの時代ではあるが、ワークショップなど、富山に来ないと体験できないリアル体験型の観光を進めている。
- ・富裕層向けのホテルが無い為、高付加価値のあるホテルや宿泊施設を誘致したり、改修の補助金を用意している。

《鎌倉市が見習うべき点》

経済波及効果などを、自ら計算・分析する技術を、行政職員が持っていた。

2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市）

《課題認識》

- ・商家のまち、ものづくりのまちとして、古くからの事業者が多い。
- ・事業承継や人材確保に困っている。
- ・物価安、円安、原材料高となっているが、ピンチを輸出の好機にしたい。

《戦略・支援策》

- ・日頃から、まちづくり協議会などの事務局として人的支援を行っている。
- ・全事業者をローラーで回り、課題を把握し、伴走型支援を行っている。
- ・人材育成支援、事業承継支援、業態転換などのスタートアップ支援、新規の起業支援などを行い、シャッター化しない様にしている。
- ・オフィスの提供や物件取得費・リノベーションの補助を行っている。
- ・評価指標を作り、エリアビジョンなど具体的な目標を設定している。
- ・創業セミナーを行い、創業支援ネットワークを作っている。
- ・飲食店応援サイト『ほっとホット高岡』や民間ウェブサイトリンク集を作り、市役所職員自らがテイクアウトした飲食物商品の宣伝をする『高岡テイクアウトチャレンジ』を行っている。
- ・大阪や名古屋の企業を誘致している。
- ・商店街に加盟してもらってメリットを作り、加盟した企業を支援している。

《鎌倉市が見習うべき点》

特筆すべきは、行政職員の市民・まちづくりに対する向き合い方であった。事業者と一緒にアイデアを出し、必死に取り組む熱量が高かった。

長嶋 竜弘
委員 所感

1 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県庁）

立山連峰と日本海に囲まれた自然豊かな富山県。自然と共生しながらさまざまな知恵を育み、独自の文化を形成してきた「とやまの文化」は、いまも人々の暮らしの中に息づいています。

「立山黒部アルペンルート」、「黒部峡谷鉄道トロッコ電車」、「世界遺産五箇山菅沼合掌造り集落」、「国宝瑞龍寺」、「おわら風の盆」、「となみチューリップフェア」、「天然のいけす富山湾の魚介類、お米、野菜」など沢山の財産があります。

また、高い技術力を背景に医薬品、金属製品、生産用機械、プラスチック製品など裾野の広い産業集積を形成しています。

一方で、宿泊者が少ないという鎌倉市と同じ悩みを抱えています。確かに近隣の長野県や石川県のような有名な温泉地は無く、大型の有名ホテルなども無い状況があり、宿泊客誘致が難しいところがあると思われます。

さらに、上に記載した財産の結びつきが今一つ薄く、富山県＝〇〇、というイメージが一般的に認識されていないのが課題であると感じました。鎌倉も財産は沢山ありますが、それぞれが知名度はあるが結びついていないという点は同じ課題があるように感じました。

マーケティング戦略の中で「実行戦略」と位置づけられるマーケティングミックスの構成要素、製品(Product)、価格(Price)、流通(Place)プロモーション(Promotion)の「4P」の中の「プロモーション」が重要であると言う点が鎌倉市と同じ課題であるように感じました。

2 社会情勢の変化に対応する観光商工振興策について（富山県高岡市）

高岡市産業の振興及び小規模企業の持続的発展に関する基本条例が議員提案で出されたとの事でお話をお聞きして非常に参考になりました。条例制定の目的に「産業振興の推進に当たっては、事業者をはじめ産業関係者や市民の皆様と意識を共有し、継続的、統一的な取組みを進めることが重要」とあり、正に最も重要な事であると認識いたしました。多数の支援策があり下記のような助成金・補助金が出ており、理事者におかれては是非見習っていただきたい。

○商店街の共同施設設置事業への支援

商店街活性化のため、アーケード、街路灯などの商店街共同施設を設置する商店街団体に対しての助成

※アーケード、タイル舗装、カラー舗装など1,000万円、照明施設500万円、商店街の共同駐車場3,000万円、その他市長が必要と認める施設1,000万円

○観光地周辺への出店に関する支援

観光地周辺の活性化のため、空き地、空き店舗や空き家で観光土産物産販売または飲食店を新規開業する方を対象に家賃、店舗改装費等に対する支援

※6ヶ所の観光地の指定された道路の沿道

①出店者店舗改装費の1/2（限度額75万円）②家賃・共益費・商店街組合費の合計1/4（限度額月5万円を1年間補助）③店舗所有者店舗改修費の1/2（限度額75万円）④空き店舗等を購入して新規開業する場合店舗取得費・改修費の1/5（限度額200万円）

○その他多数の融資制度あり